

【伊東市】

校務DX計画

文部科学省「GIGAスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議提言に基づく次世代の校務デジタル化に向け、文部科学省が公表した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するため、本市において、次に掲げる事項を重点的に推進する。

1 「校務DXチェックリスト自己点検結果」における課題等について

「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリストの自己点検結果」（文部科学省令和5年11月実施）を数値化した結果では、学校向けの点数が280.4点であり、全国平均の363.0点を下回った。校務系・教育系のネットワークが物理的に分離されていることや各種ツールの活用を効果的にできるように研修回数を増やすなど、取り組みを実施していきたい。

2 校務系・教育系のネットワーク統合

教職員一人ひとりの事情に合わせた柔軟かつ安全な働き方を可能とするため、ゼロラストの考え方にに基づくアクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じた上で、学校や関係業者と連携を図りながら、校務系・教育系ネットワークへ接続可能な環境の整備（教職員用端末の一台化を含む）に向けた調査研究を進めていく。

3 校務支援システムのクラウド化

本市で導入している校務支援システムについてはクラウド化が進んでいるが、校務ネットワークは学校内のサーバー等にて管理を行っている。出席確認や保護者への文書送付などの汎用クラウドツールと連携し、教職員間での会議資料等のペーパーレス化、教職員等の負担軽減やコミュニケーションの迅速化・活性化を図り、文部科学省の「次世代の校務デジタル化推進実証事業」の状況を注視しつつ、学校現場における課題やニーズ等に対応を進め、次世代の校務デジタル化に向けた校務ネットワーク・システム等の現状分析や望ましい校務の在り方に関する検討を進めていく。

4 FAX・押印の見直しに向けての検討

自己点検の結果によると、ほとんどの学校において、まだ保護者・外部とのやり取りで押印・署名が必要な書類がある。また、FAX回線については、災害時など有事の際に、電子メール等より効果的な場合があることから、必要なものであるとは考えているが、校務DXの推進にはそぐわないものであるため、必要なツールの見直しを図り、可能な限り、FAX・押印の使用を見直していく。